

# ちょっとひと工夫

NO.6

— 家庭学習改善のための情報 —

教学指導課

## 家庭学習シンポジウム報告

11月27日（金）須坂市立東中学校において、家庭学習シンポジウムを開催しました。約60名の先生方、市町村教育委員会の方に参加いただきました。シンポジウム全体会では、モデル校3校〔須坂市立東中学校、辰野町立辰野中学校、飯田市立鼎中学校〕の実践を基に、家庭学習の改善に向けて大切なことは何かについて討議を行いました。また、分科会では、それぞれのモデル校の取組について具体的な内容に触れながら、各校で改善を進めるための情報交換ができました。

### \*\*\*\*\* シンポジウム全体会の内容 \*\*\*\*\*



#### 討議1 授業と関連付けた家庭学習について

\* 東中学校・・・生徒が学習内容を理解できることを目的とした家庭学習に。授業での小テストで家庭学習の内容の定着を確認。生徒からは、「復習になった」の声。教師からは、「生徒の疑問が授業で生かせる」という声。子どもと共に創る授業に改善できつつあると実感。

\* 鼎中学校・・・授業と関連付ける工夫としては、例えば、国語の授業内容を要約する家庭学習。作業的な学習からの脱却を図る。生徒とともに進める家庭学習改善の取組（家庭学習あり方プロジェクト）により、生徒が自分の生活スタイルに合わせて選択できるシステムを試行。

\* 辰野中学校・・・「貫練」で扱うプリントには、現在学習している内容や定期テストで課題のみられた内容を入れている。1週間という短いスパンで振り返って、確実に理解することを目指す。「できるようになった」という生徒の意識で授業とつなげるようにしている。

まとめ→家庭学習を充実させようとする、授業の充実・改善が必要不可欠です。3校ともに教科会で意欲的に教材研究等に取り組んでいます。また、授業と関連付けた家庭学習を行うことによって、子どもたちは学習内容が理解できた喜びをもち、意欲が向上しています。



#### 討議2 家庭学習の評価について

\* 鼎中学校・・・「得意教科は自主性に任せてほしい」「苦手教科を勉強したい」といった生徒の声。教師は、何を評価するかを問われた気がした。家庭学習の提出率は評価対象から外した。生徒の主体的な取組により、学習内容をさらに深く理解できる家庭学習を目指している。

\* 東中学校・・・生徒が何が分かったかを評価したい。家庭学習の課題を定期テストに入れたり、授業で扱った小テストを評価したりしている。また、評価で終わらないように、学習の時間（朝）、達成の時間（放課後）で一人一人の実態をきめ細かく捉え、個別指導している。

\* 辰野中学校・・・個の取組状況を詳細に把握することが重要。「貫練」では、生徒それぞれの一生懸命な姿を見たい。提出率を評価することはせず、ついた力を評価している。教師は、何を願って、何をねらっているかを明確にしたい。職員の意識改革が大事。

まとめ→子どもたちが何が分かったかを評価することが、家庭学習に取り組む意欲の向上につながります。家庭学習で何をねらうのかを職員で意識統一して学校全体で取り組みたい。

### 討議3 小中連携、家庭・地域との連携について

\*仁礼小学校・・・東中学校、豊丘小学校とともに9年間の家庭学習手引きの作成や「スイッチOFF週間」を実施。小学校5、6年生だけでなく、低学年まで含め全学年での取組が有効。親子のコミュニケーションが広がり、家庭学習への意識を高めることできたと感じる。

\*辰野中学校・・・PTA研修委員会等により、保護者も一緒に家庭学習について考える場がある。学校のサポーターとなって支えていただいていると感じ、家庭学習を考えていこうという意識が高まってきている。

まとめ→家庭学習について、小中が連携した取組や地域・保護者と連携した取組を行うためには、学校の取組や方針を理解していただくことが大切です。各校でも、小中連携、家庭や地域との連携という視点で、家庭学習が実態に応じたものになるよう見直していきたいものです。



### 討議4 さらに取組を発展させて持続可能な家庭学習にするために

\*鼎中学校・・・これまでの改善は、生徒とともに進めてきた。今後も生徒・保護者の考えを聞きながら改善を行っていききたい。生徒の声では、1年生は課題を決めてほしいという声が多く、3年生は自主的な家庭学習を望む声が多い。発達段階に応じていくことが重要。

\*東中学校・・・教師の姿勢が変わった。小中連携の取組で、この地区の子どもたちを育てるという意識になってきた。担任や教科担任によって家庭学習が変わるという不安を解消できる。検討を重ねながら、家庭学習の9年間のスタイルが定着していくとよい。

\*辰野中学校・・・修正を加えながら、やり続けていくことが重要。家庭学習の改善の取組が授業の充実につながっている。〇つけをしながら声をかけてくれるボランティアの皆さんの言葉に喜びを感じている生徒の姿をこれからも大切にしていきたい。

まとめ→家庭学習の改善の取組を進めていくと子どもたちの「分かった」「できた」という喜びの声が聞こえ、「がんばるぞ」というやる気に満ちた姿が見えてきます。その姿に励まされるように教師もさらに意欲的に取り組んでいます。子どもたちが意欲的に家庭学習に取り組んでいくように各学校では改善のための検討を重ねていきたいものです。

### 参加者の感想

中学校区内の小学校として、東中学校と連携して取り組んでいます。今までは、自分自身が小中を切り離して考えていました。こういう機会を得て、日々の小学校の授業や家庭学習の取組が中学校へとつながっていると意識でき、大事に受け止められるようになりました。



家庭学習の充実の前提となる日々の授業の充実が一番大事だと感じた。授業とリンクした家庭学習にするには、子どもがもう一度振り返りたくなる授業を教師が提供しなければならないと思う。また、家庭学習の充実のねらいは何か。教師だけでなく、子どもたち自身も意識できるようにしていかなければならないと思う。

アンケート等により、県内において家庭学習の改善が着実に進められている状況が見えます。中学校では授業と関連した内容へと改善している割合が多くなっています。小学校では、授業と関連した内容に加え、自主学習を取り入れたり、家庭学習の手引きの作成や改善などに取り組んだりしている割合が多くなっています。

各学校では、児童生徒の実態や保護者の意識等を踏まえながら、学校の現状に応じた改善の取組をさらに進めていきましょう。